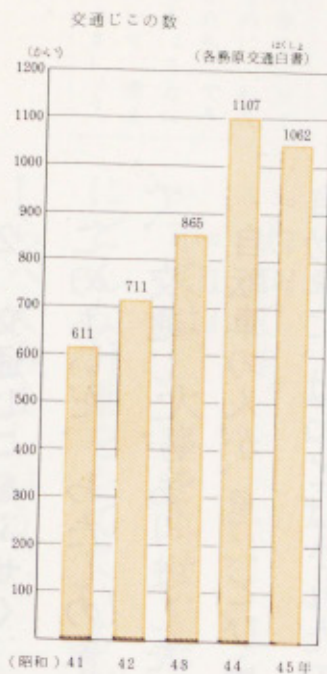




じこのようす

いじょうにふえています。  
 ちかごろは、どの道も自動車の行ききかはげしく、じこが  
 きていますが、<sup>こくど</sup>国道二十一号線と四十一号線のじこがとくに多  
 く、全体の半分いじょうになっています。  
 けがをしたり、死んだりした人の数は、みん  
 な市の人というわけではなく、四十五年のば  
 あいなどは、やく半数は、市外の人でした。  
 じこのげんいん じこのげんいんでは、つ  
 いとつとか、出あいがしらのしょうとつとい  
 ったような、車と車のじこが、たいへん多く、  
 全体の四分の三いじょうになっています。



けがや死んだ人の数

年	けがをした人	死んだ人
41年	493人	6人
42年	514	23
43年	629	11
44年	784	18
45年	857	14

市でおきた交通じこ わたしたちは、交通係のおまわりさん  
 から、市でおきたじこの数や、死んだり、けがをした人の数を  
 聞きました。左の表からも、わかるように、四十五年には、一  
 日に三回ぐらい  
 じこがおきてい  
 たことになりま  
 す。  
 五年前にくら  
 べると、二ばい

か、じこをふせぐために、どんなどりよくをしているか、など  
 について、しらべることにしました。



みんなをじこから守るしせつ



学校でおきた  
交通じこのげ  
んいんを、し  
らべてみまし  
よう。

ところが、ちかごろは、車と人、車と自転車のじこも、ふえて  
きました。

四十五年には、こどもだけでも、二人が死に、八十八人がけ  
がをするという、じこがおきています。

このような、こどものじこのげんいんは、

○道路へのとび出し

○車のすぐ前、すぐ後ろを、あわててわたる。

○自転車の乗りかたが悪い。(左右へのまがりかた・ふみきり  
のわたりかた・おうだんのしかたなど)

などが多いということでした。わたしたちが、気をつけなけれ  
ばならないことを、もういちど、考えてみましょう。

じこをふせぐために 交通のはげしい道路の、お  
うだん歩道などで、交通せいりをしていいるおまわり  
さんを、ときどきみかけます。このように、車から  
人を守ったり、交通のきそくを教えたりすることも  
たいせつですが、ひょうしきや、安全しせつなどを、  
ととのえることが、じこをふせぐためには、とても  
たいせつなことです。

そのため、けいさつしよでは、みんなのねがいを  
聞いたりして、おうだん歩道や、しんごうきなどを、  
つけるしごとをしています。

このほか、市や県や国では、

○歩道橋をつくる  
○ガードレールをつける  
○カーブミラーをつける  
○道のはばをひろげる  
といったしごとをすすめて、交通じこをなくすために、どりよく  
をしています。

じこをふせぐための人々のきょうりよく、朝、登校とくまうするとき、黄色  
いはたを持ったおおかあさんたちが、こうさ点で、交通せいを  
しているところがあります。

朝は、つとめに出る人の車が多く、しんごうきのないこうさ  
てんなどでは、なかなかわたることができません。そんなこと  
ろでじこにあってはたいへんと、PTAピーティーエーの人たちが、こうたい  
で、交通せいをすることにしたので、

火事や交通じ  
このほかに、  
どんなさいが  
いがあり、人  
々は、どんな  
きょうりよく  
をしているか  
しらべましょ  
う。

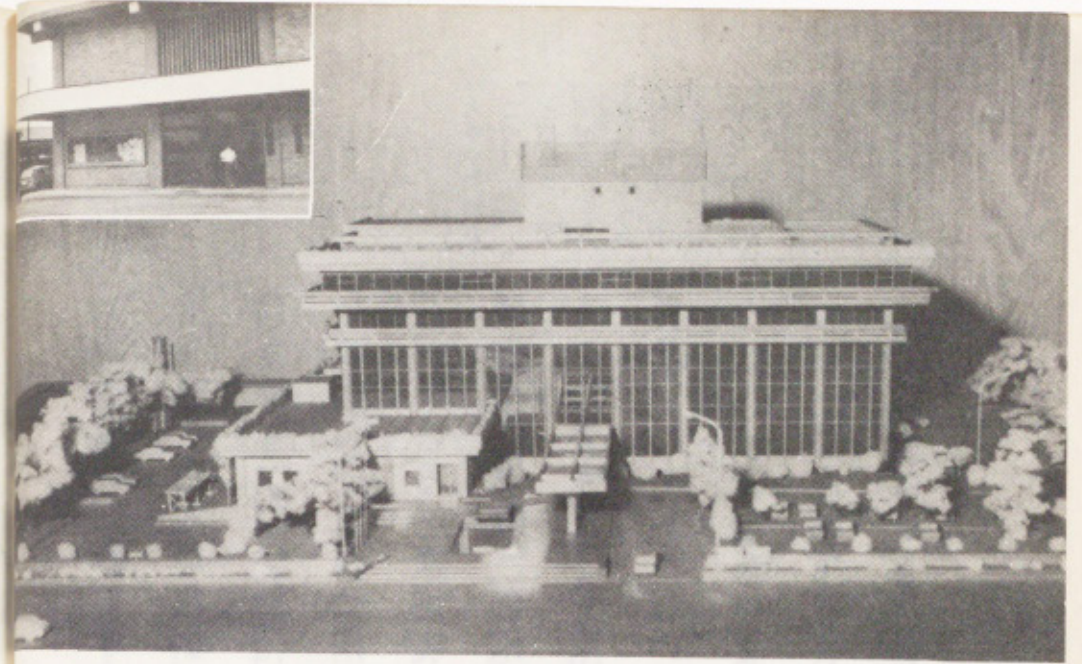
このほか、みどりの服を着た人や、けいかんと同じような服  
そうをした人たちが、交通しどうをしているのを、ときどきみか  
けます。この人たちは、市の人々を  
じこから守るために、進んではた  
らいている「交通安全協会あんけいかい」や「交  
通安全指導隊しどうたい」の人たちです。

このように、多くの人たちが、  
交通じこがおきないように、きよ  
うりよくをしています。

わたしたちで、できるきょうり  
よくはなにか、考えてみましょう。



指導隊（24名昭和46.10）の人たちは、5日ごと  
に交通指導に出ています



## 四 市の人たちのくらしと

### 市役所のしごと

わたしたちは、市の人たちのくらしをよくするしごとやそのようすを学習してきました。ここでは、各務原市の人たちのくらしと市役所は、どのようなかんけいがあり、市役所はどんなことをするところかしらべます。

また、市の人たちのくらしをよくするため、市役所のしごとは、どんな人たちが、どのようにすすめているのかをしらべます。すみよい市をめざす市役所のしごとやそのはたらきを、しっかりとみまみましょう。

市の人たちの  
ねがいででき  
た各務原市の  
しせつをしら  
べましょう。

### (1) 学校プールをつくる

#### 市の人たちのねがい

市の人たちはくらしをよくするた  
めに、たくさんねがいをもつてい  
ます。市役所の人たちは、これらの  
人々のねがいにこたえて、すみよい  
市にする計画をたてています。

そのひとつのれいとして、学校プ  
ールについてしらべるために、みん  
なでしらかたを話しあいました。

#### 市の人たちのねがい

- 道路をよくしてほしい
- 公園をつくってほしい
- 学校を新しくたててほしい
- ほどきょうがあると安  
ぜんだ
- 市民会館があるとよい

#### 市の計画

☆市の人たちのねがいは、  
どのようにしてかなえら  
れるのでしょうか。  
☆市の人たちのくらしをゆ  
たかにするしせつには、  
どのようなものがあるで  
しょう。



市の人たちのねがいをきく 市役所の人たち

しかし、川や用水で泳ぐことは、たいへんあぶないうえに、水の上、これもおどくなくなってきました。

そこで、みなさんのおとうさんやおかあさんのあいだから、学校にプールを早くつくってほしいというねがいが、強くなってきました。

市の教育委員会や、学校の先生ともいろいろそうだし、市長や市議会議員の人たちに、みんなの意見をつたえ、プール工事にもすこしでも早くとりかかってほしいとたのんだのです。」

と、校長先生が話してくださいました。



木曾川での水泳のようす

学校プールができる前は、どこで泳いでいたかしらべましょう。

## 2 プールができる前

あぶない水泳 わたしたちの市のどの学校にも、りっぱなプールがありません。夏になると、どこのプールもげん気な子ども

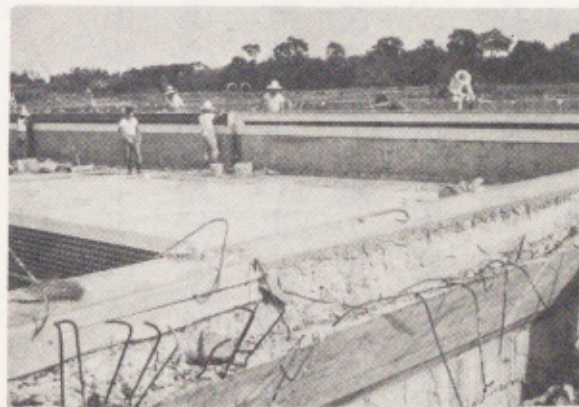
たちの水しぶきがあがっています。

わたしたちは、学校にプールができるまでのことを、校長先生にいろいろたずねました。

「学校にプールができる前は、近くの川や用水などで泳ぎました。今のように、体育の時間に水泳はできないので、夏休みになると、町内ごとに川や用水をプールのかわりに、使ったのです。」

プールをつくるそうだん 市長は、市の人たちのくらしをよくするために、いろいろなしごとの計画をすすめていましたが、学校プールを早くつくってほしいとのねがいをきいて、市ぎ会で、ぎいんと、どのしごとをまっさきに行なうかそうだんしました。学校プールをつくることは、市の多くの人たちのねがいであり、こどものからだづくりにやくだつので、市ぎ会では、プールを早くつくることに決めました。

市長は、市役所のかかりにすぐしらせさせ、市ぎ会で決まったことをしごと



プールをつくる工事

とにうつしました。このようにして、市内のどの学校にもりっぱなプールがつぎつぎにできたのです。

### 3 プールができてから

プールができたので、夏になるとどの学校でも水泳ができ、みんなは大よろこびです。

えい生せつびもよくとのえられ、夏休みの水泳についても、家の人たちは安心です。学校では、泳げない子もなくすために、水泳教室を開いたり、記録会を行なったりしています。



プールでげん気に泳ぐこどもたち

プールができる前とできてからのようすをしらべて、よくなったことをまよめましょう。

市の人たちのためにあるしせつが、できなわけを、なにかひとつのしせつをとりあげてしらべましょう。



市のさんぎょうをさかんにするための「さんぎょう会館」

#### 4 市にあるみんなのしせつ

市役所では、市の人たちのくらしをゆたかにするために、学校プールのほかに、ほいく所やえい生センターなど、たくさん

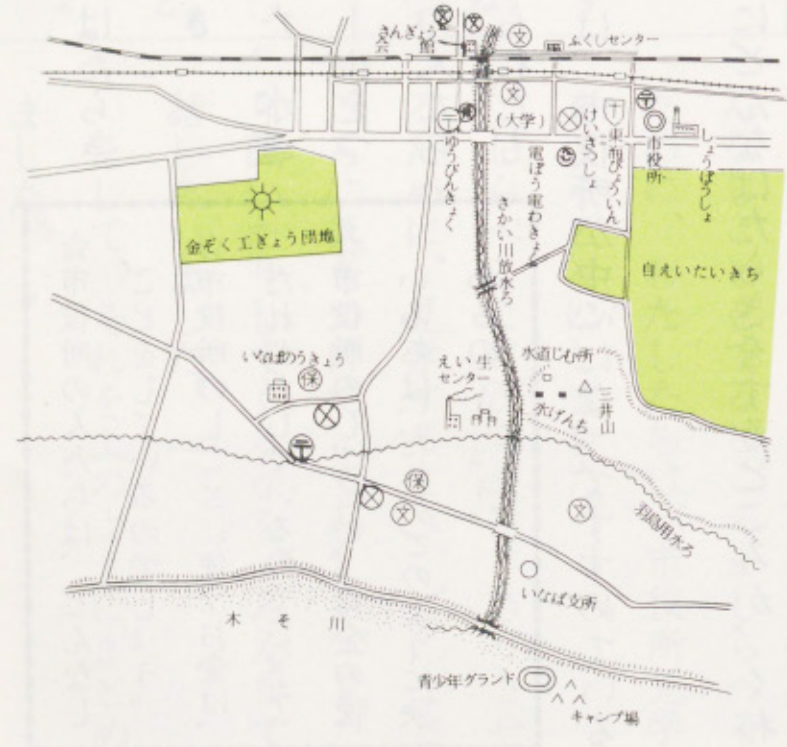
のしせつをつくっています。また、鶉沼には、「縄文遺跡公園」をつくり、大むかしの人々のくらしのようすをつたえる計画をすすめています。このほかに、市の人たちのためのしせつには、どんなものがあるか、グループごとにしらべて発表しました。



市の人たちがりようしている「ふくしセンター」

下の絵地図のように、人々のくらしをゆたかにする市のしせつを、白地図にかき入れましょう。

わたしたちは、いろいろなしせつが、市の人たちのねがいによってつくられていることや、しせつができるまでには、市長や市議会、市役所のかかりの人たちのはたらきのあつことがわかりました。



市の人たちのくらしをゆたかにするしせつのあるところ

(2) 市役所と市議会のはたらき

― 市役所のはたらき

いままで勉強べんきょうしてきた、水道をひくことも、学校プールをつくることも、みんな市の人たちのねがいによってつくられたもので、それらのしごとは、市役所が中心になってすすめていることがわかりました。

市役所は、このほかにどんなはたらきをすることで、くわしくしらべることにはしましょう。

☆市役所の人たちは、どんなしごとをしているのでしょうか。  
☆市役所のしごくに使うお金は、だれがだしているのでしょうか。  
☆市役所のしごとと、お金の使いみちは、だれがどのように決めるのでしょうか。

市役所見学

◎見たり聞いたりすること

1 市役所のように

おもて・たてものの中・ぎ場のようす

2 市役所のかかりのしごと

3 いろいろなしごとと市の人たちのねがいとのつながり

4 しごくに使われるお金

5 市議会や市長のしごと

◎まとめと発表

○はんごにもんだいをうけもつ

○よくわかるように図や絵などにまとめる

○見学でもらったプリントなどをじょうずに使う

市役所見学の計画 市役所は、ど

んなしごとをすることで、くわしくしらべることができるために、わたしたちは、市役所見学をすることにしました。

しらべることがらをはつきりさせるために、見学するとき、どんなところに気をつけて、くわしく、見たり聞いたりしてくるかを、みんなで話しあいました。

そして、それを上のようになまとめました。



家の人に、市役所へどんな用じのとき行くか、聞いてノートにまとめましょう。

市役所のように 国道二十一号線こうせんぞいにある市役所の広場ひろばは、用じでくる人たちの車でいっぱいです。たて物のなかにはいると、広いロビーがあり、いすにかけたまっている人たちがいっぱいです。中では、市の人たちが、かかりの人とどけを出したり、そうだんしたりしています。

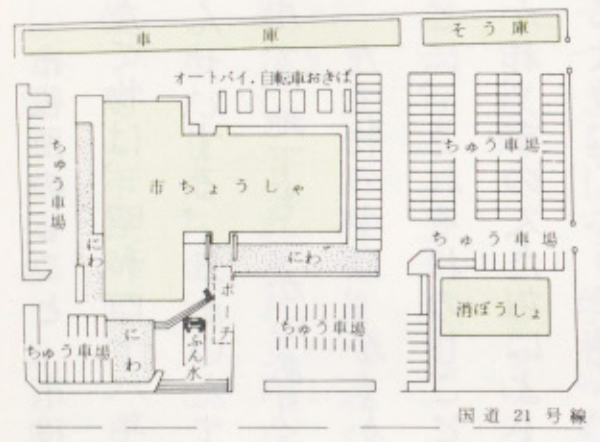
市役所の人たちは、たくさんのかかりにわかれて、ちようぼをしらべたり、電話をかけたたり、しよるいにはんをおした



たてものの中のぎんこうでお金の出し入れをします

多くの人たちがとどけをだします

りして、いそがしそうです。わたしたちは、市役所のようにすを、はんごとにつぎのようにまとめました。



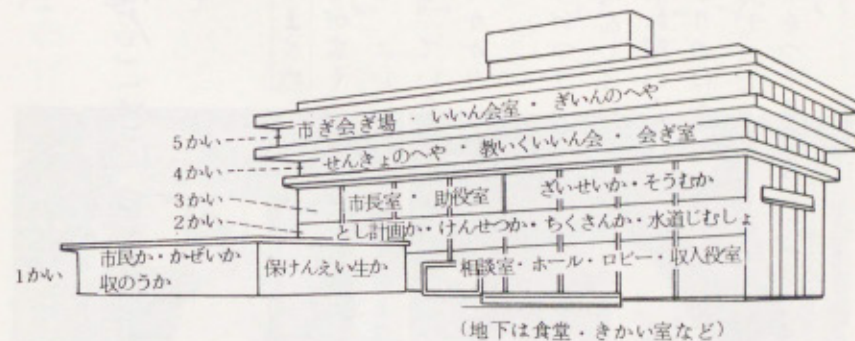
市役所のたて物のはいち図

市役所見学のみとめ (一ばん)

- 1 ちゆう車場が広く、たてものあんない図、ロビー、エレベーターなどがあり、べんりになっている。
- 2 たくさんのかかりにわかれて、しごとをしている。
- 3 市の人たちがつきつきにきて、かかりの人とそうだんしている。
- 4 市役所の人に聞いたこと、じむのかかりのほかに、道をなおしたり、水道のしごとをしている人もいる。
- 5 すみよい市をつくる計画もたてている。

市役所の人たちのしごとは、市の人たちのくらしと、どんなつながりがあるかしらべましょう。

市役所のしごと 市役所のたて物は、昭和四十八年にかんせいする、五かいだてのビルで、地下も一かいあります。たて物の中は、かくかいごとに、それぞれのしごとにわかれ、市の人たちによくわかるようにくふうされています。とくに用事の人が多いかは、一かいにあつめられ、べんりになっています。



1ばんがつくった市役所のおんない図

見学したことをまとめたら発表のしかたをくふうしましょう。

赤ちゃんが生まれたときのとどげや、ぜい金のことは、一かいのかかりで、すますことができます。また、各務原市へうつてきて、市内の学校へ入学するときも、一かいの市民課で手つづきをして、学校へ行くことになっています。市役所で、これらいろいろのしごとをしている人は、ぜんぶで六百人あまりです。

また、市役所まで遠いところの人たちのために、稲羽・蘇原・鶉沼に、それぞれ支所がおかれています。

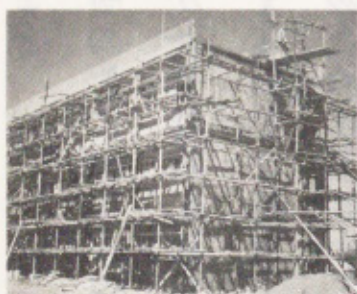
わたしたちのはんは、市役所のおんない図をつくり、それを使って、市役所には、どんなかかりがあつて、どんなしごことをしているか発表しました。



ほいく所をつくる



道をなおす



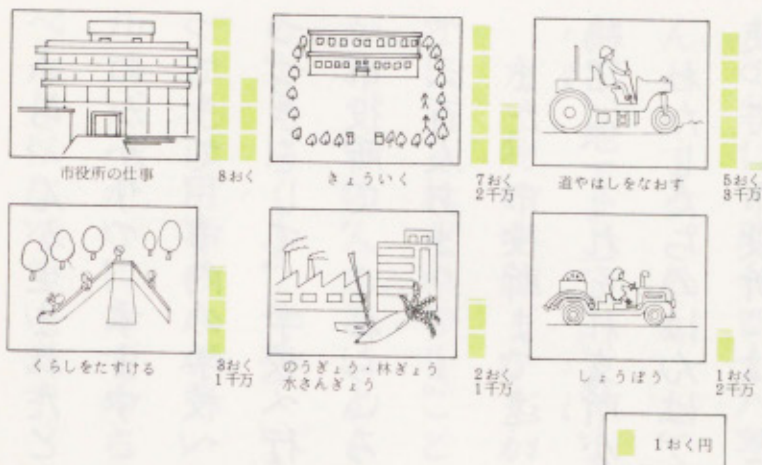
学校をたてる



ふたセンターをつくる

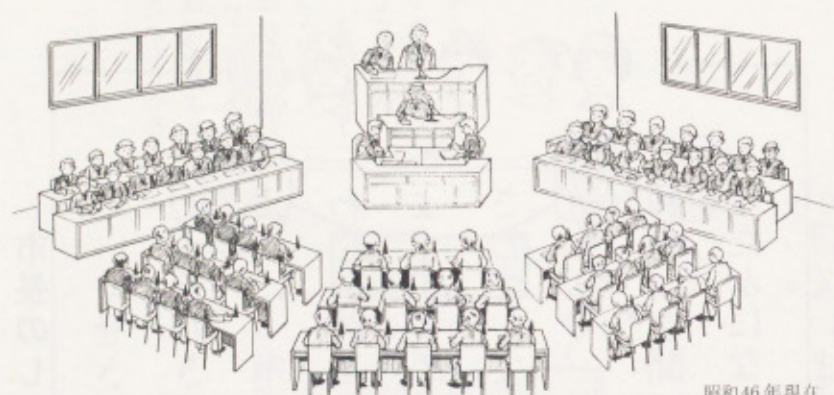
こともわかりました。  
 これらのしごとにかかるお金は、市に住む人たちが「ぜい金」としておさめたお金が使われることも教えてもらいました。  
 先生のせつめいで、市の人たちのおさめるぜい金は、市の人たちのくらしをよくするために使われるのだということが、よくわかりました。

市の人たちのおさめているぜい金は、どんなことに使われているかしらべましょう。



市の人たちのために使われるお金(昭和46年)

市役所では、多くの人がいろいろなかきりにわかれて、しごとをしています。  
 先生は、市の地図をゆびさしながら、学校けんちくや道ろ工事のようす、北部の新しい土地づくりなど、市役所が中心になって大がかりなしごとがすすめられていることを話してくださいました。  
 このような、大がかりなしごとにはたくさんのお金がひつような



昭和46年現在  
市議会議員30人



市議会のようす—正面まんなかが議長、その両がわは市長・助役・部長  
こちらがわにいるのが市議会議員

したりします。  
ぎいんは、それをもとに、市の人たちのくらしをよくするための話しあいをして、市で行なうしごととぜい金の使いみちを決めていくのです。  
このように、市議会ぎいんは、市の人たちみんなのことを考えてそうだんする人ですから、みんなのねがいがかよくつたわるように、市の人たちから、せんきよでえらばれることになっています。

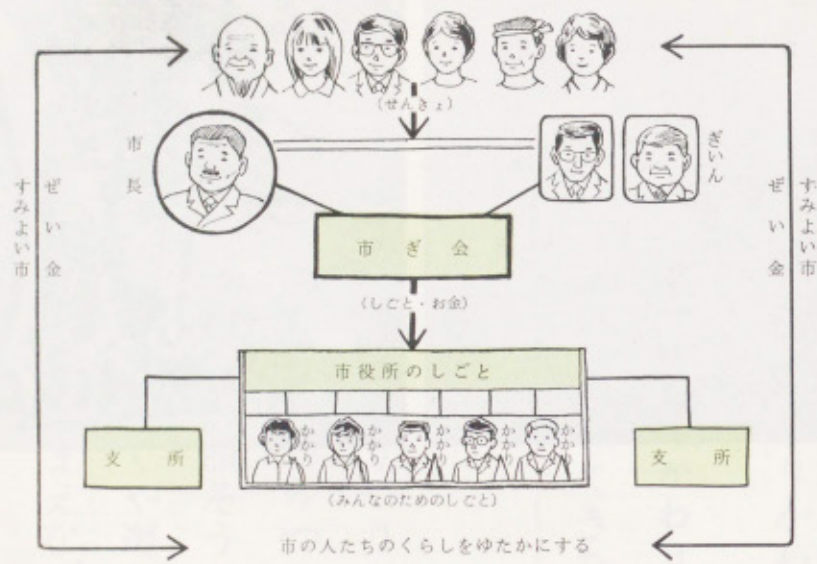
市議会と市長  
のしごとのち  
がいをしらべ  
ましょう。

## 2 市議会や市長のしごと

市議会のしごと 市役所のしごとしらべてわかったように、市役所では、いろいろなかりにわかれて、市の人たちがおさめたぜい金で市をよりよくするしごとをすすめています。

それでは、市の人たちのために、どんなしごとをするか、そのしごとにどれだけのお金をかけるかなどは、だれがどこで決めるのでしょうか。

市の人たちのくらしをよくするために、ひつようなしごとやそれにかけるお金は、市議会ぎいんが市議会を開いて、そうだんして決めるのです。市議会には、ぎいんのほかに、市役所の人たちもしゅつせきして、しごとをていあんしたり、せつめい



市の人たちと市議会、市長、市役所とのつながり

せんきよ このように、市議会ぎいんや市長は、市の人たちのためにだいじなしごとを行なう人です。この人たちがすすめるしごとは、市の人たちのだいひょうとして、みんなのくらしをゆたかにするためのものです。それで、市の人たちは、せんきよで、りっぱな人をえらぶことが、わたしたちの市をよりよくすることだと、おもいました。

ぎいんや市長は、どのようにして、えらばれるのでしよう。また、どうしてせんきよで決めるのか考えましよう。

市長のしごと 市議会で決まったことを、じっさいに行なっていくせきにん者が、市長で、ぎいんと同じように市の人たちからせんきよでえらばれます。学校プールのところで勉強したように、市長は市議会で決まったことをもとにして、さらにくわしい計画をたて、しごとをじゅんじょよくすすめていくために、かかりの人をさしずして、そのしごとをさせます。それで、市長は、いつも市の人たちのねがいを聞いて、市の人たちのくらしがゆたかになり、すみよい市になるよう心がけています。



せんきよのかいひょうのようす



## 五 各務原市のうつりかわり

わたしたちは、これまで、いまの市のように、市の人たちのしごとや、くらしのくふうなどについてしらべてきました。

ちかごろの各務原市では、あちらこちらの山がけずられ、田畑がうめられ、工場やじゅうたくが、どんどんたてられています。

わたしたちの市が、いまのようすがたになる前は、どんなだったのでしょうか。

また、どんなことがもとになって、市は、かわってきたのでしょうか。そして、これから市は、どのようにかわっていくのでしょうか。

### (1) 学校のうつりかわり

学校のうつりかわり わたしたちの学校は、いつごろでき、どのようにかわってきたかを、しらべてみましょう。

しらべること

- 1、校しゃのうつりかわり
- 2、じどう数のうつりかわり
- 3、子どもの服そう
- 4、遊びどうぐや遊びかた
- 5、学校のなまえなど

しらべかた

- 古くから、のこされているものでしらべる。
- しゃしんでしらべる。
- おじいさん、おばあさんなどに聞いてしらべる。

古いできこ  
は、としより  
にききまし  
う。

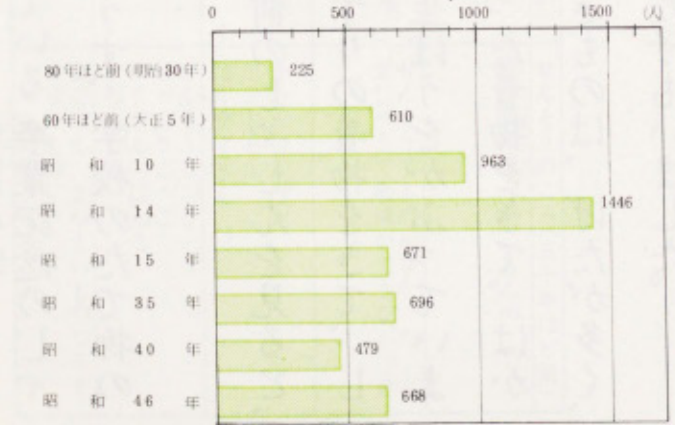
木ぞう校しやから鉄きん校しやに 那加第一小学校は、今から百年ほど前（明治六年）にできました。そのころは、お寺が



那加第一小学校—木ぞう校しやのころ

学校でした。今から、八十年ほど前に、今の場所に、新しく木ぞう校しやがたてられました。そのころ、学校の前は、畑ばかりで、家は、あまりありませんでした。その後、校しやは、二回ぞうちくされ、こうどう、きゆうしよく室、プールなどが、つきつきにたてられました。今の鉄きん三階だての校しやは、昭和三十九年にたてかえられたものです。

じどう数のうつりかわり 木ぞう校しやがたてられた明治三十年（八十年ほど前）の、じどう数は、今の半分もありませんでした。それが、昭和十四年までは、ほとんどふえています。そのために、二回ぞうちくされました。昭和十五年には新しく那加第二小学校ができ、じどう数は、前年の半分以下になりました。その後は、少しずつへって、昭和四十年には、四百七十九人になりましたが、今では、新しいじゆうたくがふえ、子ども



那加第一小学校のじどう数のうつりかわり

学校のしゃしんから 学校にのこされている卒業記念のしゃしんを見ると、むかしの生とや先生のようす、学校のたて物のようすなどがわかります。



50年ほど前の生とのようす

今から、五十年ほど前のしゃしんを見ると、男の生との多くは、かすりの着物をきて、しまのはかまをはき、学生ぼうをかぶっています。女の生とも家でおった着物をきて、はかまをはいています。はきものは、げたが多く、なかには、くつをはいた子もいました。わたしたちは、そのころの生との学用品、持ち物、べんとう、遊びなどについて、おじ

いさんやおばあさんなどから聞いて、つぎの表のようになどめてみました。わたしたちの今のようすとくらべて、ちがいを見つけてみましょう。

学校のくらしのうつりかわり

べん当	遊 び	持ち物	学用品	服	
				男	女
ごはんは家で食べに行く 近いうめぼしやつもの 子ほし食べに行く	たがまわし じんどり まりつき 百人一首 かると	竹馬 ごならべ しやうき	木のふで入れ せきばん・せきひつ ノートはざら紙 そろばん(五つ玉) ふろしきにつつむ 手づくりのかたかけばん	① 着物 ② 洋服 ③ 着物 ④ はかま	明治のころ(六十年ほど前)
うめぼし食べに行く 近いうめぼし食べに行く 子ほし食べに行く	かくれんぼ 野球 馬どび まりつき なわとび ゴムとび	ドッジ 走りこ なわとび ゴムとび	アルミのふで入れ アルミの下じき 一年生もノート えんぴつなど多くなった ふろしきにつつむ かたかけばん ランドセル	① 着物 ② 洋服 ③ 学生服 ④ せびろ ⑤ スカート	昭和のはじめ(四十年ほど前)
まぜたもの さつまいものつるを たべものが少なかった	せんそうごっこ じゆんさごっこ にくたん ばんこ かちんだま	せんそうごっこ じゆんさごっこ にくたん ばんこ かちんだま	せんそうでものがなかった 空しゅうで勉強がでなかった せんそうごっこ かたかけばん ランドセル ぼう空ずきん	① 国民服 ② もんぺ	せんそうのころ(三十年ほど前)



町をまわって  
むかしのよう  
すをつたえる  
ものを見つけ  
ましょう。

(2) むかしのようすをつたえるもの  
市をまわると、大きな木、わら屋根  
の家、土べい、門、きねんひなど、む  
かしのようすをつたえるものが、いく  
つも見られます。

☆市のなかで、むか  
しのようすをつた  
えるものに、どん  
なものがあるでし  
よう。



須衛にある道しるべ

道しるべ 県道、関—江南線の  
須衛地区のわかれ道に、高さ  
八十センチほどの石がたつて  
います。その石には、「右、草  
井渡・コチノ道、左、各務オ



うねま こくどう  
鶴沼の国道のわかれ道にある  
ひょうしき

ガセイケ・犬山道」と字がほ  
つてあります。これは、むか  
しの人々が、旅をする時に、目じ  
るしに、使ったものなのです。  
むかしの道しるべと同じよう  
に今では、わかれ道に、ひょうしきがたつています。となりの市  
まで、なんキロあるかが書かれています。車をうんでんする人  
は、それがめやすになります。たいへんべんりで、安心して、  
うんでんできるためです。

祭りのようす 各務の「村国座」は、今から九十年ほど前に  
つくられたまわりぶたいと、花道のある大きなしはい小屋です。

むかしのまつりのようすを、家の人やおとしよりにきいてしらべてみましょう。



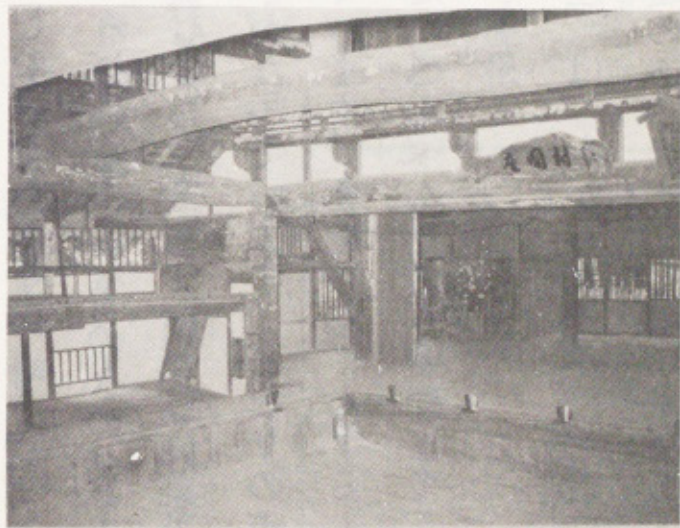
今のまつりのようす

このしばい小屋で、まい年秋になると、その年のほう作をいわって、村のわか者が しばいをします。その日だけは、村の人たちがしごこのことをわすれて、

しばいを楽しんでるので

今でも、

祭りの日には、こどもやわかい人たちの、おどりやしばいが行なわれて、たいへんにぎわ



各務の村国座のふたい

左が花道、ふたい中央がまわりふたいになっています。

わたしたちの校下には、どんな石ひや、きねんひが見られるでしょう。



だんがんのあと

います。

石ひやきねんひ 下のしゃしんは、鉄道を

しいたり、境川放水路をひらいた遠藤儀作の



遠藤儀作翁のひ  
えんどうきさくおう

ひです。このように、市のはってんにつくした人のおこないや、市の人たちにとって、わすれることのできないことがらをしるした、石ひやきねんひを、あちこちで見ることができます。

川崎山の西のふもとの八幡神社には、せんそう（三十年ほど前）のきずあとが、今でものこっています。

せんそうで、わたしたちの市は、たくさんのそんがいをうけました。



高山線がしかれる前の那加の町

高山本線がしかれる前

六十年ほど前の、国鉄那加こくてつなが駅のあたりは、どんなようすだったのでしょうか。

おじいさんの話によると、六十年ほど前の、このあたりは、ほとんどが松林や草原で、かいこんした畑が少しあったくらいで、家は、一けんもなかったということですよ。

上の地図が、そのころのよ

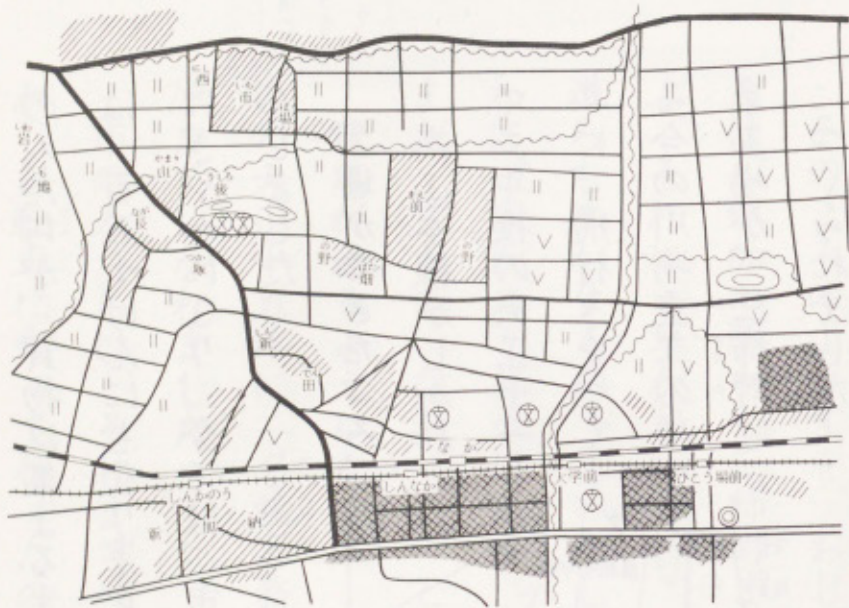
(3) 各務原市のはってん

わたしたちの市が、今のようになるまでには、いろいろなできごとがありました。どんなできごとがあったか、しらべてみましょう。そして、わたしたちの市が、今のようにかわってきたのは、どんなできごとがきっかけになったのか、みんなで見聞を出しあって考えてみましょう。

☆各務原市は、どのようなできごとによって、かわってきたのでしょうか。

☆高山本線、川崎重工しづこう岐阜工場、名鉄各務原線ができてから、市のようす、市の人たちのくらしや、しごとなどは、どのようにかわってきたのでしょうか。

☆四町が、がっぺいして、市になってから、どのようにかわったのでしょうか。

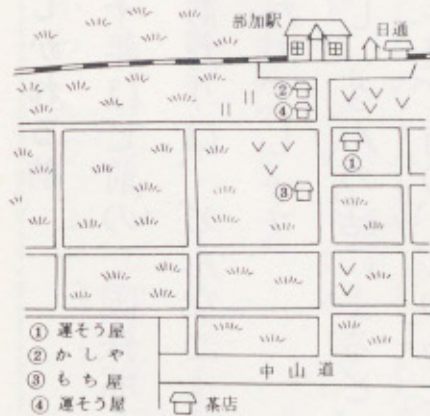


今の那加の町のようす

大正十二年に、高等農林学校（今の岐阜大学）ができる  
と、駅を中心にして、だんだん家がたてられ、町らしくな  
ってきました。  
那加の駅前をもつとはって  
んさせようとする人たちが、  
そうだんして、大正十四年に  
一・六市いちろくいちといって、毎月、一  
と六のつく日に市を開くよう  
になりました。すると、市内

高山線がしか  
れて、市のよ  
うすや、人び  
とのくらしや  
しごとが、ど  
のようにかわ  
ったか考えま  
しょう。

うすをよくあらわしています。今の那加の町の地図とくらべて、  
ちがいを見つけてみましょう。  
高山本線がしかれて 今から五十五年ほど前（大正五年）に飛  
行場こうじやうができると、市のようすはだんだんとかわってきました。  
飛行場ができると、四年後の大正九年に、高山本線が各務原ま  
でしかれ、各務原の駅と、那加  
の駅ができました。  
那加の駅ができたころは、ま  
だ、新加納しんかのうがにぎやかでした。  
駅ができると、駅前に家がたて  
られるようになりました。



駅ができたころの那加駅ふきん

工場と鉄道との結びつきを  
考えましよう。

の人たちが、買物に集まるようになり、家の数も そのころには、百五十けんにもなりました。こうして、だんだんと駅前がにぎやかになり、今では、市内で一ばんの商店がいには、はってんしました。

工場ができたころ

高山本線がしかれて二年後の大正十一年に、飛行きをつくる今の川崎重工の岐阜工場が、三柿野につくられました。

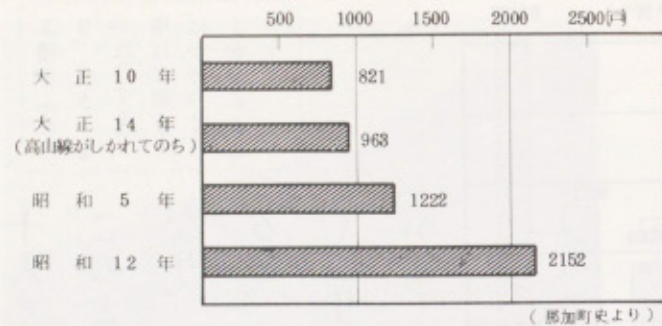


川崎の工場ができたころのようす

そのころのようすを、おじいさんは、「川崎の工場ができたころは、那加の駅から三柿野までの間は、いちめん、松林と竹やぶ、それに、草がおいしげっていて、きみしいところだった。道ろもまがりくねっていたし、六軒のあたりは、中山道の両がわに、家が二、三十けんあっただけだった。国鉄の蘇原駅は、まだ、できていなかった。」と話してくれました。

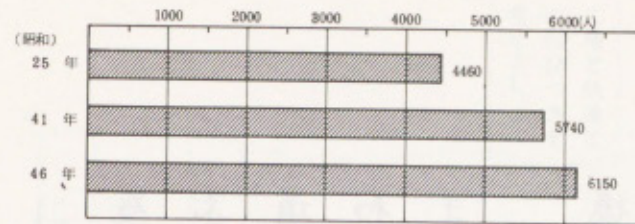
電車が通るようになって 川崎の工場ができると、その四年後の大正十五年に、名鉄各務原線が、岐阜から、今の名電各務原までしかれました。

市の人たちは、それまで岐阜へでかけるときは、歩いて行くか、自転車に乗って行ったのです。



那加の町の戸数のうっりかわり

昭和三十年ころになると、川崎の工場の下うけをする協力工場が、川崎の工場を中心にして、いくつもできてきました。今では、川崎の近くだけでも、十社ほどになっています。これらの工場ではたらく人は、多いところで六百人、すくないところで、五



三柿野駅で一日に乗りおりする人の数

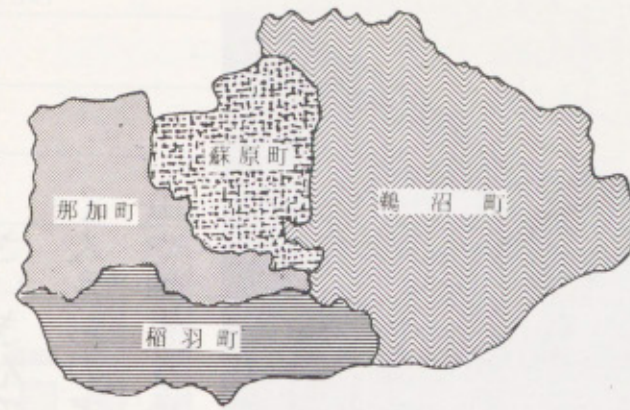
電車が通るようになって、市の人たちはたいへん助けられました。しかし、人の行き来が、今のようには多くなかったので、電車に乗っている人は、とてもすくなくなつたということでした。今では、三柿野駅で乗りおりする人は、一日に、六千人をこえています。この人たちの中には、川崎の工場へかよう人たちのほかに、岐阜や名古屋へ行き来する人たちも、たくさんいます。かわつてきた市のようす 高山線がしかれ、川崎の工場ができ、電車が通るようになると、那加、三柿野、六軒のあたりのようすは、だんだんかわつてきました。



市になってから こんなことが  
おこなわれました

- 昭和  
38年 那加第二小、第三小の<sup>たいいくかん</sup>体育館が できあがった。  
39年 那加第一小の<sup>こうしや</sup>校舎が たてられた。  
各務小のプールができた。  
40年 蘇原南、那加<sup>ほいくしよ</sup>保育所がつくられた。  
稲羽中のプールができた。  
41年 稲羽西小の校しゃ、プールが できあがった。  
<sup>しょうぼうしよ</sup>消防署がたてられた。  
42年 国道21号線にはじめて<sup>ほどうきょう</sup>歩道橋がつくられた。  
鶉沼中の体育館とプールができた。  
蘇原中の校しゃが できあがった。  
43年 各務<sup>さらか</sup>保育所、更木保育所ができた。  
44年 <sup>ふくし</sup>福祉センターができた。  
市のごみやき場ができた。  
<sup>あいきおほし</sup>愛岐大橋が できあがった。  
東消防署ができた。  
きんろう青少年運動場ができた。  
那加中の校しゃの一部がたてられた。  
45年 那加第一小、蘇原中の体育館ができた。  
那加第二小、各務小の校しゃの一部ができた。  
<sup>さんぎやう</sup>産業会館が できあがった。  
46年 稲羽東小の校しゃが できあがった。  
鶉沼第二小の校しゃの一部ができた。  
市民プールができた。

市になってから 市になって、つぎの表のようにいろいろな  
しごとが、つぎつぎにすすめられました。



四町のがっぺい地図

町から市へ わたしたちの市は、昭和三十八年に、それまで  
の稲羽町、鶉沼町、蘇原町、那加町の四つの町が、がっぺいし  
て、新しく各務原市になりました。  
はじめは、それぞれの町が、おたがいにつ  
ごうのよいことばかりを考えていたため、が  
っぺいは、むずかしかったそうです。しかし、  
何回も話し合うあいだに、道ろ 学校などを  
つくるしごとなどは、四つの町が、べつべつ  
にしているのは、むだが多く、町の人たちのく  
らしが、よくなるまいということがわかり、  
がっぺいして 市になったのです。



いろいろなできごとをしらべて、年表にせいりしてみよう。

市のうつりかわりを年表にまとめる 今までの学習で、市のようすやしごとやくらしが、長い間のいろいろなできごとによって、今のようにかわってきたことがわかりました。市のうつりかわりを年表に、せいりしてみましよう。

明治				今から何年前
七十年	八十年	九十年	百年まえ	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大きな地しん（のうび地しん）にあう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 那加、蘇原、稲羽、各務、鶴沼に小学校ができる</li> <li>○ 村国座ができる</li> </ul>		できごと

昭和			大正			
今	十年	二十年	三十年	四十年	五十年	六十年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市庁しゃの工事がはじまる。</li> <li>○ 愛岐大橋ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四町ががつぺいして各務原市となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢湾台風におそわれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ せんそうでばくげきにあう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国鉄蘇原駅ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 川崎の社たくが、雄飛が丘にできる</li> <li>○ さかい川の放水路ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各務原線がしかれる。</li> <li>○ 川崎重工の岐阜工場ができる。</li> <li>○ 高山本線がしかれる</li> <li>○ 飛行場ができる。</li> </ul>

市を住みよく  
 するために、  
 市では、どん  
 な計画をたて  
 ているかしら  
 べてみましょう。  
 う。

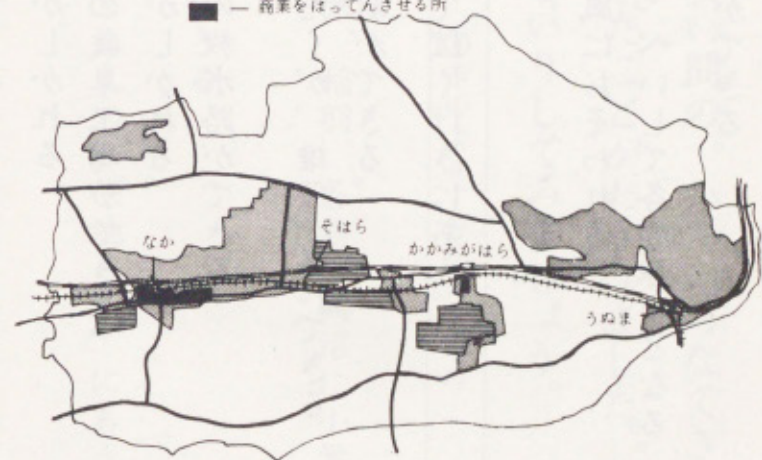
(4) これからの各務原市

新しい都市づくり

わたしたちの各務原市  
 では、十年後に、人口が  
 十四万人ぐらいになると  
 考え、それにあうように  
 大きな都市づくりの計画  
 をたてています。

市役所の都市計画課で  
 は、住たくにする所、工

- — 住宅としてはってんさせる所
- — 工業を中心にはってんさせる所
- — 商業をはってんさせる所



10年後の町づくりの計画

場を集める所、商店をさかんにする所をきめて、住みよい、ゆ  
 たかな市をつくるため、今、いろいろと計画をたてています。

そのほか、いちばんおくれしてい  
 る下水道の計画もたてています。

さいきん市役所の東につくられ  
 た中央公園のようにりっぱな公園  
 を、あちらこちらにつくろうとい  
 う計画もあります。

このように、ゆたかで、住みよ  
 いくらしができるように、いろい  
 ろな人たちがどりよくしています。



市役所の東につくられた中央公園

みんなのねがい 市の人たちは、住みよく、明るい市にするために、いろいろなねがいをもっています。

「道路を広くしたり、歩道橋や信号きをとりつけて、交通じこのない市にしてほしい。」

「公害のない、すみよい市にしてほしい。」

「市立図書館、文化センター、スポーツセンターなどがほしい。」  
みんなのねがいはつきからつきへとつづきます。

市では、このような市民のねがいを一日も早くかなえようと  
いろいろなどりよくをしています。

わたしたちもこれからの各務原市を、どんな市にしていったらよいかを考え、話しあってみましょう。

わたしたちの市は、こんごどのようにかわっていか、また、どのようになつたらよいと思うか話しあってみましょう。

一 土地の開発と人々のくらし

(1) 各務用水

那加西市場町を通る県道八十三号線にそって、用水が流れています。長良川の水を取り入れている関市小瀬から、岐阜市高田まで、およそ十八キロメートルを流れているこの用水を、各務用水といいます。

この各務用水は、いつごろ、どのようなして作られたのでしょうか。



新しくなった各務用水 (蘇原)



水おけてくみあげた むかしのようす

明治十六年のひでりは、とくにひどく、夜どおし水番みづばんをする日ひが、いく日もつづいたり、たまり水を、水おけてくみあげて、田に入れて、いねのかれるのをふせぎました。そのくろうがもとで、病やま気けになつたり、死んだ人もあつたほどでした。ひでりがつづいても心配しなくてもいいほどの水がほしい。そして、もっとたくさんおほいの田あきがほしい、ということが、その土地に住む人びとの強いねがいでした。

用水みづができる前のようす、つくる時の苦心、できてからのようすなどについて、しらべてみましょう。  
用水路みづかみちへのねがい 今から百年くらい前の各務原市（そのころは村）に、住んでいた人たちは、ほとんど、田畑のしごとをしていました。  
各務原は、台地たいちのため、畑がほとんどで、田がつくられていたのは、川にそつたひくい土地や、谷川から水がひける、山ぎわの土地だけでした。  
芥見あかたみふきんも、近くに、長良川や津保川つたがわがあるのに、川がひくいために、水をひくことができず、田は少ししかありませんでした。

用水路をつくる計画とその苦心 明治十三年三月、芥見村の人たちは、津保川から取り入れる用水をつくってほしいと、県にねがいでましたが、なかなかゆるしがでませんでした。

その間に、また大きなひがいを受けたので、用水がほしいという人々のねがいは、ますます強くなりました。

津保川からの用水計画が進まないで、こんどは、長良川から水をひく計画が、たてられました。この計画を進めたおもな人々に、横山忠三郎（蘇原）岡田只治（山県）後藤小平次（武儀）といった人がいました。

横山忠三郎らは、さつそく村々をまわって、用水路をつくる計画を話し、みんなのさんせいをもとめました。

ところが、用水のきまりをつくるそうだんを始めたところから、きまりにふまんをもつ人々が、反対しはじめたため、計画は、うまく進まなくなりました。

反対のおもな理由は、

○工事にかかるひょうのわりあてが、気にいらぬ。

○田畑をつぶしてまでは、つくりたくない。

○お金をたくさんかけて、ほんとうにせいこうするか心配だ。といったことでした。



横山忠三郎とそのきねんび（蘇原）

各務用水のできるまで

明治13年	●用水を作ることを計画、数百円を使ってそくりょうした。
16年	●今までにないひでりで、いねはほとんどかれてしまった。用水のひつようなことがわかり計画が進んだ。
21年	●工事のひょうなどのふまんから、反対運動がはげしくなった。
23年	●白金村のこうじをはじめ、6月に水が通った
24年	●全体の用水ができた。大雨のため、一部がこわれた。
26年	●のうび大しんさいで、ところどころがこわれた。なおす工事にかかる。
27年	●ひでりがひどく、植えつけができなかった。長良川の大水で、水路がうまった。
29年	●ひでりがつづく。水あらいがはげしかった
30年	●津保川が大水で、かけどいが流れた。
34年	●なおす工事がすみ、用水がかんせいした。
40年	●用水のかんせい式がおこなわれた。

ところが、その年から、大水や地しんなどが、つぎつぎとおこり、せつかくつくった水路が、こわれるということが、たび重なりました。それをなおすのに、月日がかかり、長らく使うことができませんでしたが、明治三十四年に、やっとできあがり、ゆたかな水が、流れるようになりました。工事をはじめから、十四年もかかったわけですから、用水ができて、できあがった用水をみて、人々は、どんなにうれしかったことでしょう。明治四十年に行なわれたかんせい式の日には、

その人たちは、反対のえんぜつ会をひらいたり、そくりょうのじやまをしたりしました。また、工事を進めようとどりよくしている、岡田只治や横山忠三郎などが通ると、悪口をいったり、おどしたりしました。

「岡田ぎつねにだまされて、水はこんこん、人はわいわい」という、うたができたほどですから、そうとうさわがしかったというところが、わかります。

やがて反対運動もおさまり、工事が始まりました。今のようにな進んだきかきもない時代でしたから、工事をするのはたいへんなくろうでしたが、明治二十三年になって、だいたいできあがりました。

新しくなった用水(那加西市場)



すもう大会や、けい馬<sup>けいば</sup>があり、花火<sup>はなび</sup>もうちあげられて、とてもにぎやかだったと、蘇原のおじいさんが、なつかしそうに、話してくれました。

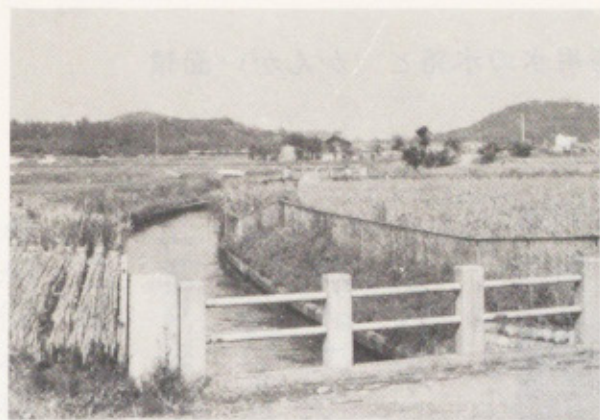
用水ができたため、ひでりによる水の心配も少なくなり、新しい田もふえました。

その後、取り入れ口を、小屋名<sup>おやな</sup>から小瀬<sup>おせ</sup>にかえる工事があり、(昭和二十一年〜二十六年)水路も長くなりました。昭和四十四年から、こんどは、水路をコンクリートにする、大がかりな工事を始めました。

これができあがると、約七百七十ヘクタールの田に、用水の水が使われることになります。



わたしたちの  
まちのむかし  
の土地の開発  
についてしら  
べましょう。



ゆたかな水が流れている用水路

## (2) 羽島用水

用水ができる前のようす 各務原市の南部から、羽島市にかけて、およそ二十七キロメートルの羽島用水が流れています。

この地方は、平地で土地がよくこえているため、農作物を作るのにてきした土地ですが、用水がまだないときは、毎年のように水不足でひがいをうけていました。大正十三年などは、しゅうかくが、半分ほどしかない田や、ぜんぜんとれない田が、たくさんあったほどです。

そのころの人たちは、稲羽いなばにある山脇池やまのわきいけや三

土地の人たち  
の用水路への  
ねがいをしら  
べましょう。

井池いけから水をひいたり、わき水わきみづやほりぬき井戸いどから田畑いけに水をひいていました。

しかし、その水はゆたかでないために、日ひでりがつづく、すぐ水がかれてしまい、ひがいをうけるのです。とくに、田ういえどきに水がたりないときには、「くつつき棒植ぼううええ」といって、かわいた田に、棒ぼうであなをあけて、なえをさし、そのあとから、やかんで水をそそいでいく、田ういえのしかたも、おこなわれていました。

それで、「水さえじゅうぶんあれば、もっと広い田いがつくれるのだが」ということが、長いあいだ土地の人たちのねがいでした。

## 用水路をつくる計画と苦心

この地方の人たちは、すぐ近くを流れている木曾川の水を利用するために、大正十五年に「水利組合」をつくり、用水路をつくる計画をたてました。そして、県庁や県議会に、用水路を早くつくってほしいとなんどもねがいでため大正十五年の県議会で、羽島用水路を七十万円でつくることが決められました。

しかし、取り入れ口をどこにす



羽島用水路とかんがい面積

用水路をつく  
った人たちの  
苦心のようす  
をしらべまし  
よう。

るかがなかなか決まりませんでした。そのために、計画はおく  
れました。昭和四年三月に工事が始まり、稲羽の上中屋（その  
ころ羽島郡）から十一キロメートルにおよぶ用水路がかんせい  
したのは昭和七年三月のことです。

なかでも、上中屋地区は暗きよ（地下六メートルほどのトン  
ネル）工事のため、地下水があふれ、セメントがすぐ流れてし  
まい、たいへんむずかしい仕事でした。また、いまのような土  
をほる機械もないころですから、たくさんの方がかんたんな道  
具で、夜も工事をしなければなりませんでした。

こうして、木曾川の水は、取り入れ口から水路にみちびかれ、  
さらになん本ものこまかな水路にわかれ、この地方の田畑をう



田にのこっている鉄かん (山脇)  
やまわき

日三百人あまりの農家の人たちが、その仕事をしなければなりませんでしたが、しかし、たくさんの水を取り入れることができず、あちこちの田の中に鉄かんがうちこまれ、ポンプで水をくみあげることもしまりました。そこで、取り入れ口をさらに上流につくること  
がひつようになつてきました。

や砂が流れてこなくなつたために、川ぞこがさがつて水が取れなくなつてきたとのことです。そのため、取り入れ口に、本流から導水路をつくるために、昭和十七年ごろから、毎



尾関新七さん (昭和47. 86才)



古い羽島用水の取り入れ口 (上中屋)

川の上流に多くの水力発電のダムができて、土  
尾関さんの話によると、数年もすると、木曾  
月、尾関新七(上中屋の人)という人が、水門  
のあけしめをしてきました。  
とても大きかったといえます。  
きたこの地方の人たちだけに、そのよろこびは  
きたこの地方の人たちだけに、そのよろこびは  
きたこの地方の人たちだけに、そのよろこびは

用水路ができてから、その地方は、どのようにかわったか知らべましょう。

るおすことになりました。  
用水路ができてからのようす この羽島用水ができて、この地方の人たちは、はじめて木曾川の水を利用することができるようになりました。長いあいだ、こう水と日でりに苦しめられて



羽島用水の記ねんひ（羽島郡笠松町）

たいせつなはたらきをしています。

しかし、古い用水路は、水もれがひどいうえに、はばがせまいのでたくさん水を流すことができないので、国と県の方で新しい用水路にする工事が行なわれま

した。用水路がりっぱになったため、わたしたち

の市の南部の畑にも水がひけるようになり農産物のとれ高も大きくふえてきました。

このように、人々の努力と国や県の方によつて、水の心配はなくなりましたが、まだ土地改良やはい水などのもんだいが残っています。

市郡名	田	畑
岐阜市	33.2ha	
各務原市	196.1	80ha
羽島郡	700.5	
羽島市	822.9	

羽島用水かんがい面積(昭41年)



犬山頭首工(犬山取水ダム) つつみの長さは420mあります。

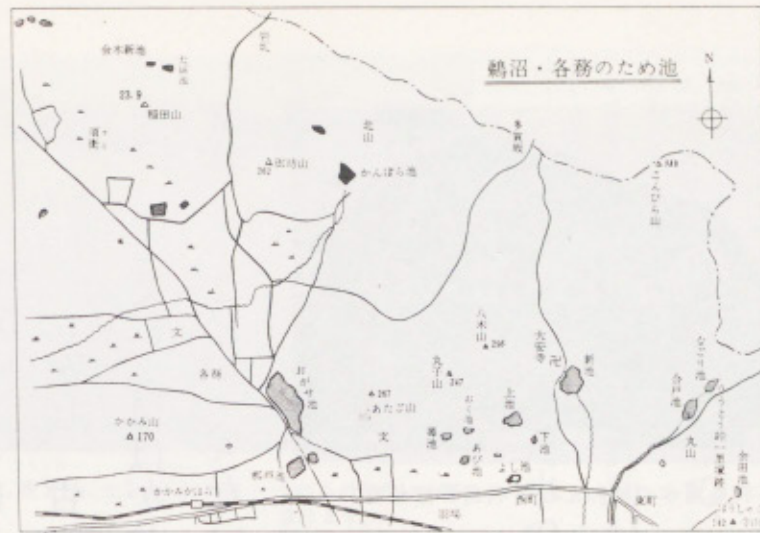
わたしたちの地方のさいきの土地開発のようすについてしらべましょう。

あたらしい羽島用水。そのころ、国でも、木曾川総合開発のひとつとして、ゆたかな水をたくさん利用して、かんがい面積をふやす計画が考えられていました。この地方の人たちも国のお金で、用水のための大きなダムをけんせつするよう熱心にしたのみました。そのため昭和三十一年の国会で、

予算がみとめられました。

この工事は、羽島用水だけでなく、愛知県の宮田用水・新古津用水をふくむ濃尾用水の仕事としてすすめられることになりました。

犬山城の下にあるダムは、昭和三十七年四月にかんせいし、三つの用水の取り入れ口として



(3) 鶺沼のため池

鶺沼の北の山あいには、いろいろの大きさの池が、たくさんあります。

これらの池は、山から流れてくる谷川の水や、雨水をため、水のほしいときに使う 農業用水池です。どの池が、いつごろつくられたのか、くわしいことは、わかりませんが、今から三百年ほど前（江戸時代の初めごろ）に、十二の池があり、水田に使われていたということが、記ろくにのこっています。そうとう古い池もあることがわかります。

ひでりになやむ 鶺沼のほとんどの水田は、池の水をたよりに、つくっていましたから、ひでりがつづく、すぐ水ぶそくになり、たいへんこまりました。たとえば、一七九九年など、五月の終わりから雨がふらず、七月のはじめには、池の水も、ひあがってしまい、いねは、ほとんどかれてしまいました。

人々は、ひでりがつづくたびに、雨あまごいをしました、雨のふることを、ほとけ様や神様に、いのるのです。田畑が少ないうえに、しゅうかくがなければ、くらしがいけないので、人々は、

ひでりのきろく

- 1743年 7月 ひでりがつづいたので雨ごいをした。
- 1790年 田植ころから雨ごいをした。夏中に7回ほど、各務までおどり歩いたが、ふらふらだった。
- 1799年 5月すむから ひでりがつづき三日 三ばん雨ごいをしたが、なめなかった。ほとんど米がとれなかった。
- 1832年 6月からひでりがつづいた。
- 1855年 ひがいが大きく、年ごとへらしてもらった。

いっしょうけんめいだったのです。

新池と水田をつくる計画 江戸時代の終わりごろ、尾張藩(愛知県)では、農民などから、三百人ほどのへいたいを集め「草薙隊」となづけて、各務原などで、くんれんをしていました。

この草薙隊に、鶉沼からも、九人がくわわっていました。

隊の中心であった田宮如雲は、くんれんのあいまに、各務野(鶉沼内野から西のあたり)を開いて、水田を作るといふ計画をたてました。



今も水田に使われている新池



草薙隊が開いた用水路

それには、水がひつようだといふので、池を作ることにしました。

如雲は、太田宿の福田太郎八の助けをかりて、大安寺前に、大きな池をつくりました。明治三年のことで、この池が、今もある新池です。

水路は、けいせん寺(西町)とよし池の間を通り、羽場の津島神社の東で、中山道を横ぎり、南西にむかつて各務原にはいるといふ道すじでした。

そくりょうのしかたなどは、今のような進んだほうほうではないので、なかなかかどりませんでした。けれどもかんたんなほうほうのわりには、正しくできたということなのです。

新池いがいの池にも、つたわっている話があるか、しらべてみましょう。



田宮如雲の記ねんひ

も、かいさんしてしまいました。

その後の新池 如雲の開たくは、しっぱいしましたが、新池は、そのままのこりしました。その後、東町・南町・西町などの田に、この水が利用されるようになり、そのため、ひでりのがいを受けないですむようになりました。新池の水が、どのように使われているか、くわしくしらべてみましょう。

水田がつくられたあたりは、草原や松林がほとんどで、あれ地のままだったようです。このようなあれ地をくわだけでほりおこして田にするのですから、たいへんなことでした。水田のしっぱい こうしてできあがった水路も、ただ土をほってかためただけであったため、とちゅうの水もれがひどく、じゅうぶんな水を、送ることができませんでした。そのうえ、新しく開いた田も、土が軽<sup>かる</sup>くて水もちが悪かったために、いねを育てることができませんでした。



水田を開いたあたりの今のようす

二 中山道

(1) 大むかしの交通

東山道 各務原市のほぼ中ほどを、

東西に通っている中山道（現在の国道二十一号線とほぼ同じ）について、

しらべてみましょう。

岐阜市岩田にある日子坐王のはかや、五十琴姫のはかであるといわれる琴塚、あちこちで発くつされた古墳・住きよ



むかしの道と今の道

あとなどから、大むかしから、このあたりに人が住んでいたことがわかります。

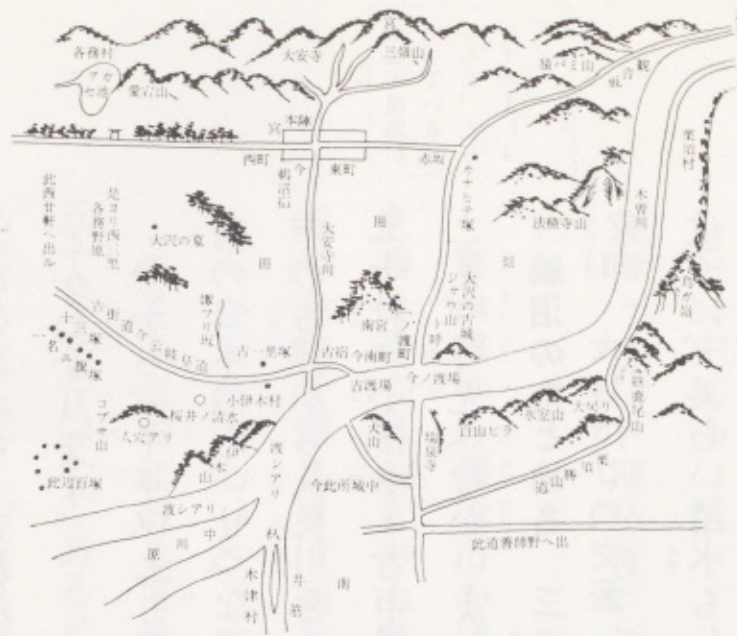
今から、千年以上も前に、このあたりに、東山道という、当時の日本のたいせつな道がおっていました。東山道は、岐阜市の古津から長良川をこえて、蘇原の古市場にはいり、鶉沼の二十軒・小伊木・古市場を通り、南町の城山の下で、木曾川をこえ、可児へむかいました。

鶉沼の市と地名 三世紀ごろ（千七百年ほど前）、鶉沼に、「駅家郷」という駅があつて、七十戸ぐらいのぶらぐがありました。近くに、美しい清水もわいて、旅人が休むのによい所でした。古市場や南町は、その地名のとおり、「市」がたつて、にぎやか

現在の道路が通っているところと、くらべてみましょう。



約百八十年前の道



な所でした。八世紀ころの古い歌や本には、鶉沼のことを、「宇留摩市」・「売間」・「鶉留間」などと書かれています。これは、物を売ったり、買ったりする「市場」といういみも、ふくまれているのです。

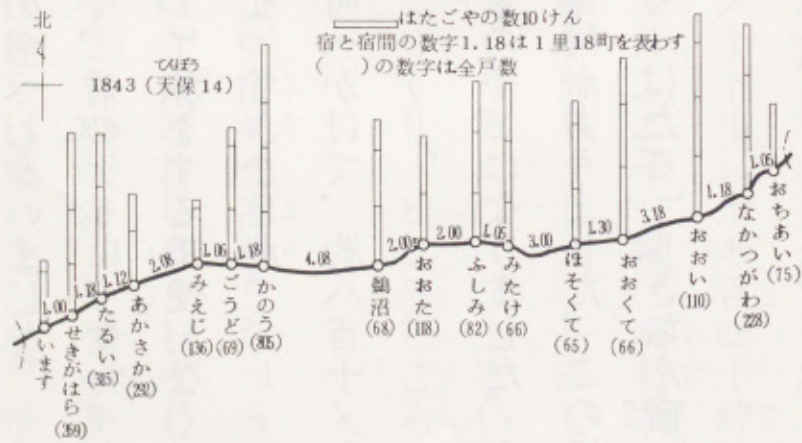
(2) 江戸時代の交通

今から三百七十年ほど前に、徳川家康が、江戸（今の東京）に、幕府をひらきました。それから、約二百六十年

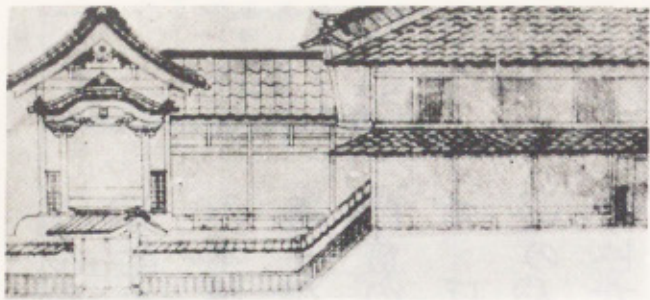
一里は、約四キロメートル、一町は、約百十メートルです。宿と宿の間のきよりをう。しらべましょ

間続く江戸時代は、大名行列などで、道もよくなり、宿駅もとのつって、前の時代よりらくに、旅ができるようになりました。

中山道 このころまでは、東山道とよんでいたのを、中山道とあらため、道すじもかわって、東濃から美濃加茂市の太田の宿にはいり、現在のように、木曾川の北を通って、鶉沼宿にはいり、那加の新加納の西坂で、今の国道二十一



岐阜県内の中山道の宿 (岐阜県の歴史より)



本陣の玄関の図

中庭がつくられていました。大名がとまると、表門には、宿札や高張りちようちんを出し、門の横の番所では、夜どおし番をしました。このほか、本陣の中には、小さな川があつて、一年じゆう水が流れ、防火用水の役目をしていました。桜井

むかしの交通のようすをつたえる、道しるべなどが、近所にあつたらしらべましよう。

号線より北にある道を通つて、加納の宿へむかいました。

このように、宿駅がととのつたので、前のように、食物、すいじ道具、野宿のための道具まで持つて旅をする不便がなくなつて、旅をする人が、だんだん多くなつてきました。

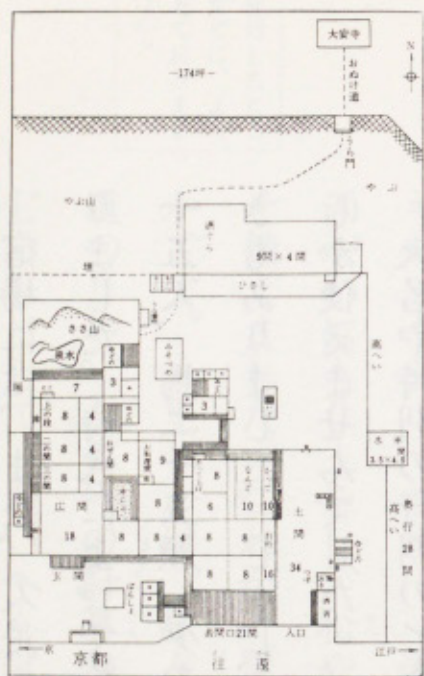
鶉沼宿 鶉沼の宿は、東町から西町へかけて、約八百十メートル（七町三十間）の間です。

本陣の桜井さんの家は、大名や公家のやどになりました。本陣のつごうが悪いときのために、脇本陣がありました。このほか、宿場には、ふつうの旅人がとまる「はたご」・「きちん宿」などがありました。

本陣の桜井さんの家は、大名のほか、たくさんのけらいを

とめなければならぬので、たいへん大きなかまえてした。まず、やしきが、約五千七百五十平方メートル（千七百四十坪）で、その中に、表間口約三十七メートル（二十一間）、奥行約五

十メートル（二十八間）の家がありました。しかしこんな大きな家は、むかしのつくり方では、できないので、いくむねもつき合わせてつくり、ところどころに、中庭がつくられていました。



本陣の間取図(鶴沼町史より)

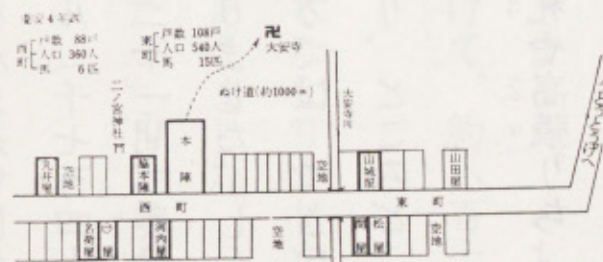
使われたので、小さいながらも、表門もげんかんもありました。このころは、農民や町人は、門やげんかんをつくれなかつたのですから、たいへんだいじにされていたことがわかります。

大名が、ひなんする場所にしていました。鶴沼宿では、それが、大安寺だんあんじになっていました。

脇本陣は、本陣よりずっと小さく、やしきも、約二千四百七十五平方メートル(七百五十坪)でした。本陣のつごうが悪いときのほか、けらいがたくさんで、本陣にとまれないときにも

本陣には、いろいろなそなえがしてあつたわけを考えましょう。

さんの家には、今もこの小川が、残っています。また、酒倉さかぐら・米倉こめぐら・米つき場まで用意してありました。本陣の表門は、宿場の外からは、見通せないように、道がゆがめてあつて、門前の道はばも、四〜五メートルほどで、ほかのところよりもせまく、大ぜいの人が、一度にせめてこれないようにしてありました。それでも、まだ心配だといので、本陣は、うら門の近くに、大きな寺か、神社をもつており、ぬけ道でつないで、きけんなときに、



鶴沼宿の町なみ(屋号のあるのははたご)

どのあたりから助郷に出るか、地図でしらべましょう。

宿場には、また、人足や馬を用意している問屋というのがありました。時代によってちがいますが、鶉沼の宿では、人足二十五人、馬二十五頭、少ない時は、人足六人、馬六頭というときもありました。しかし、この人足や馬は、役人や大名・公家しか使えませんでした。

大名や特別の行列のときは、宿場の人足や馬だけではたりないので、近くの村から、りん時に、人足や馬を出すことになっていました。これを「助郷」といいます。

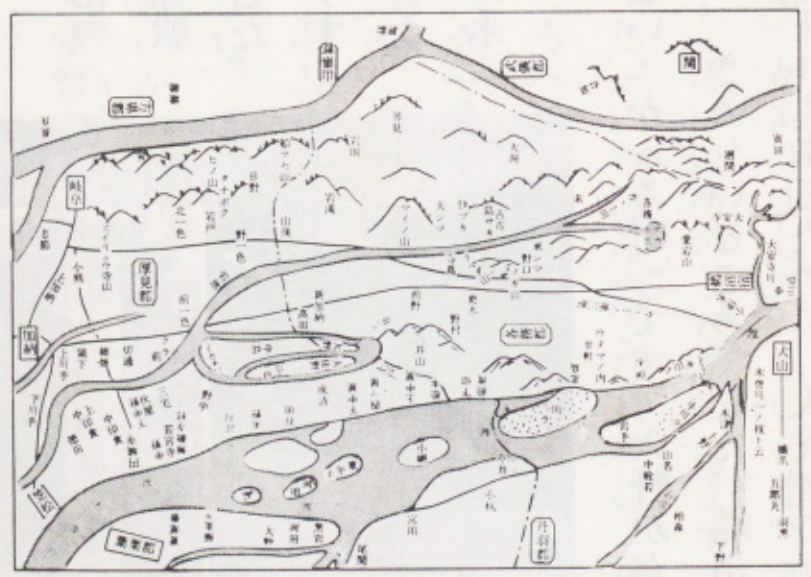
鶉沼の宿の助郷は、須衛・各務・持田・坂井・東島・野口・熊田・飛鳥・古市場・伊吹・島崎・柿沢・前渡・富岡・下野・上野・木津・深萱・迫間の十九の村でしたが、助郷は、農民に

どんなことかおきるか、考えてみましょう。

とっては、農業のしごとにしつかえ、たいへん苦しいつとめでした。

一里づかとなみ木 このころの街道には、一里（やく四キロメートル）ごとに、道の両がわにもり土をし、松や榎を植えました。これが一里づかです。一里づかは、旅人の道のりや、かご代の計算のめじるしとして、たいへん役に

旅行したときなどに、よく見ておきましょう。



約 180年前の各務原ふきの図

たちました。

一里づかは、市内では、鶉沼の「うどうとうげ」・国鉄各務原駅の東・六軒・新加納しんかのうにありました。また、道の両がわには、夏はすずしい木かけをつくり、冬は、雪よけに利用りようできるようにと、松の木が、植えられていました。

鶉沼の宿を西へ向かうと、広い「かかみ野」です。六軒から西那加までは、一軒の家もない、さみしいところでした。鶉沼と加納宿の間が、十七キロメートルもあるために、人足がつか

松なみ木のよ  
うすを、お年  
よりなどに聞  
いて、しらべ  
てみましょう。

れるので、新加納に「あいの宿しゆく」がありました。「あいの宿」というのは、正しい宿場ではなく、休けい所のことをいいます。

**和宮わのみやの行列ぎやうれつ** 鶉沼の宿を通った、いちばん大きな行列は、徳川家茂とくがわ いえもち（第十四代将軍しゅうぐん）のところへおよめいりになる和宮わのみや（孝明天皇こうめいてんの妹いもうと）の行列です。一八六一年十月二十八日に、おとものが約千八百人、ながもち二十三本、そのための人足が、七千人という行列でした。「その日は、中山道の両がわの道から見えるところでは、はたらいていけない。目ざわりになるものは、みんなとりすてよ。」というめいれいが出されました。

人足の助郷は、美濃みの・飛驒ひだ・伊勢いせの三国から集められたほど、大がかりなものでした。



中山道と一里づか（矢じるし）（うどうとうげ）

あ と が き

小学校中学年の社会科は、地域学習といわれている。しかしながら、具体的な授業となると、学習で扱う地域の内容や観点が明確でなかったり混乱していることが多い。また、教師の多くが市内およびその近傍に在住しているにもかかわらず、教材として扱う市内の諸事実、事象のは握に困難を感じている現状である。

いっぽう、昭和四十六年に小学校学習指導要領の実施と、本市のめざましい発展に伴い、昭和四十二年に作成された副読本「かがみがはら」の全面的な改訂を迫られてきた。

このため、本市の現状にたち、中学年社会科の目標の明確化と指導内容の精選、望ましい單元構成という三つの観点から新しく本書を作成することとした。

したがって、本書は小学校第三学年および第四学年の社会科学習の教科書ともいうべき内容をもつものであり、学校における社会科の授業に直接使用されるものである。また、市民として本市の自然の姿や産業、交通等の現状や発展のようすを理解するにも有効な参考図書でもあらうといえる。

しかしながら、本書は本年度に入ってから現地調査、資料収集、原稿執筆、編集等多忙な校務のいとまをぬって行ない、一応の成果をまとめたものであるため、なおふじゅうぶんな点も多いと思われる。今後、具体的な教育実践によって検討を累積し、将来さらに洗練されたものになることを願っている。

終わりに、本年度に入って着手という強行日程にもかかわらず、順調な歩みを見せ完成したのは、作成委員の献身的なご努力によるものであり、豊富な資料を快く提供してくださった諸官公署、諸機関ならびに関係各位に対し厚くお礼を申しあげる次第である。

各務原市教育長

水 口 一 也

かがみがはら市のようす



# かがみがはら市のようす

- 家のかたまっているところ
- 山
- 田
- 畑
- あれ地やしきら
- 池や川



のなることを願っている。  
 終わりに、本年度に入って着手という強行日程にもかかわらず、順調な歩みを見せ完成したのは、作成委員の献身的なご努力によるものであり、豊富な資料を快く提供してくださった諸官公署、諸機関ならびに関係各位に対し厚くお礼を申しあげる次第である。

各務原市教育長

作 成 委 員

前 田 常 夫	学 校 教 育 課 長
長 尾 正	指 導 主 事
矢 崎 久 男	指 導 主 事
成 瀬 文 平	各 務 小 学 校 長
武 藤 貞 雄	那 加 第 二 小 学 校 教 頭
後 藤 宏 一	蘇 原 小 学 校 教 諭
左 高 英 夫	稲 羽 東 小 学 校 教 諭
白 木 征 雄	鶉 沼 第 一 小 学 校 教 諭
鈴 木 安 行	各 務 小 学 校 教 諭
立 川 清 水	那 加 第 三 小 学 校 教 諭
西 垣 浩 太 郎	那 加 第 二 小 学 校 教 諭

各務原市立図書館蔵書

かかみがはら

昭和47年3月31日印刷

昭和47年4月1日発行

編集・発行者 各務原市教育長 水口一也

印刷者 羽島市江吉良町517番地  
浅野印刷 代表 浅野 逸治

発行所 各務原市那加桜町  
各務原市教育委員会



各務原市図書館



113705651

3